

○議長（茅沼隆文）

引き続き、一般質問を行います。

7番、下山千津子議員、どうぞ。

○7番（下山千津子）

7番議員、下山千津子でございます。

通告に従いまして、1項目の質問をさせていただきます。大規模災害に対応する減災の具体策構築と訓練を。

日本列島の活断層やプレート境界に起因する大地震は、最先端の科学技術と機器をもってしても、その活動の予知は大変難しいことが判明しております。本町では、防災の日を中心に町民の多くの方が訓練に参加され、さらに近年の訓練には中学生の参加で救援活動の貴重な担い手となり、充実した内容で実施されております。また、平成28年3月には地域防災計画の修正版が作成されるなど、災害に対する意識は徐々に高まっていると感じております。

近年は、多くの火山活動が活発化しています。また、相模トラフ地震や南海トラフ地震などとの巨大連動型地震などが懸念されております。大規模地震や噴火災害に対する本質的な実践訓練は実施されていないと町民は不安を持っております。町は、大規模災害を想定した具体策構築とその訓練について、町民にわかりやすく示され減災への取り組みを早急に展開すべきと考え、以下の質問をいたします。

1、富士山噴火や酒匂川氾濫時の減災対応策は万全ですか。2、地域防災力強化のために各自治会は現行よりも小単位の訓練が必要であり、また高校生の育成について、町はどんなお考えですか。3、女子消防団員の必要性和拡充策についての考えはいかがでしょうか。

以上、壇上からの質問といたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

下山議員のご質問にお答えします。

議員ご指摘のとおり、近年、日本各地において、平成23年3月の東日本大震災、平成26年8月の広島での豪雨、昨年9月の関東東北豪雨、そして今年4月の熊本地震における地震災害など、大規模災害が多発をしております。開成町でも、東日本大震災や平成19年、平成22年の台風による豪雨災害を受け、開成町地域防災計画を改定いたしました。さらに、今年3月にも一部、開成町地域防災計画の見直しを実施いたしました。現在、この計画をもとに、減災の考えを重視した総合的な防災対策を進めております。

それでは、一つ目の富士山噴火や酒匂川氾濫時の減災対応策は万全かについて、お答えをいたします。

富士山噴火に対する減災対策については、神奈川県安全防災局が事務局となり関係機関で構成する富士箱根火山連絡協議会を設置し、富士山及び箱根山の対策を検

討しております。開成町も、このメンバーとなっております。また、静岡県、神奈川県、山梨県の3県では富士山火山防災対策協議会を組織しており、平成26年10月には富士山火山3県合同訓練が開催をされ、開成町から上島、河原町自治会の皆さんに降灰時の住民避難訓練に参加をいただきました。

富士山噴火の被害想定は、過去に火山灰の堆積により酒匂川の氾濫が発生するなど、その被害が広範囲に及ぶことが予想され、開成町単独での対応は困難であるとの見解から、今後とも富士箱根火山連絡協議会、富士山火山防災対策協議会、神奈川県西部広域行政協議会などを通じ、国、県、近隣市・町と連携をし、降灰対策の検討などの対策強化を図ってまいります。

次に、酒匂川氾濫時の減災対策であります。ハード面では、2級河川の管理者である神奈川県が100年に一度の降雨に対応できるよう堤防などの整備を進めております。また、歴史的遺産であるかすみ堤の水防施設としての機能によっても、氾濫抑制機能が補われていると考えております。ソフト面では、昨年9月の鬼怒川決壊の教訓を生かし、酒匂川での想定外の豪雨による氾濫に備え、改めて町民の皆さんへ過去の氾濫状況を情報提供したり、氾濫した場合、どこに避難することが安全かなど、自助を促す取り組みを推進していきたいと考えております。

万が一、酒匂川の氾濫のおそれがある場合には、早急に避難対策を実施し、町民の皆さんの人命の安全を最優先に消防団等による避難誘導を実施いたします。また、これまで町では、神奈川県の浸水被害想定に基づき平成21年3月に洪水ハザードマップを作成し、浸水状況等を明らかにしております。これに基づき、平成24年には酒匂川の氾濫を想定した浸水対応避難訓練を実施いたしました。

今後、神奈川県において、酒匂川、要定川、仙了川等の浸水被害想定について5年以内に見直しが行われますので、町でも神奈川県の浸水被害想定をもとに、洪水ハザードマップの見直しを行う予定であります。今後、新たなハザードマップをもとにした避難訓練の実施や浸水被害発生時一時避難所協定締結事業所と連携した自治会単位の訓練の実施、防災行政無線、携帯電話など、様々な情報伝達手段による情報伝達訓練の実施を検討してまいります。

二つ目の地域防災力強化のために各自治会は現行より小単位の訓練が必要であり、また高校生の育成について、町はどんな考えかについて、お答えをいたします。

開成町防災訓練においては、自分の身は自分で守る、みんなの町はみんなで守るという観点から、隣近所同士で声のかけ合いや向こう三軒両隣での安否確認の実施を推奨しており、実際の各自主防災会の訓練の中でも取り入れていただいております。具体的な取り組みとして、宮台自治会においては、大規模な災害で家屋が倒壊した際に、その家の住人が全員、避難所に避難が完了したかを確認できる災害時安否確認カードを導入しております。今後、これらの先進的な取り組みを他の自治会でも取り入れていただけるよう、全町的なものにしていきたいと考えております。

高校生の育成というご意見ですが、開成町では平成25年度から、昼間に発生した際の重要な戦力として、文命中学校全校生徒に町防災訓練に参加をしてい

ただいております。開成町には県立吉田島総合高校があります。平日昼間における県立吉田島総合高校との連携について、今後、情報交換等を実施し検討してまいりたいと思います。

三つ目の女子消防団員の必要性和拡充策についての考えはについて、お答えします。

平成27年度現在、神奈川県内33市町村のうち15市町において女子消防団員が確保されております。他市町村においては、女子消防団員は、平時にあつては火災予防活動や研修、訓練への参加、消防活動の広報、防災意識向上への啓蒙・啓発を行い、災害発生時には避難誘導、呼びかけなどの後方支援活動などに従事しているということを認識しております。

開成町では、これまで各自治会内の組織として金井島、中家村、下島に女子消防隊を結成し、自治会内の消防広報活動に活躍をされ、現在も下島では自治会において活動されておりますが、人が集まらないなどの理由で金井島、中家村では既に解散をされております。中家村では、形を変えて「防災について勉強する会たんぽぽ」として、女性の視点で防災活動が積極的に展開がされております。

現在、消防団員の状況は、定員108人に対して現有団員は97人であり、11人の欠員が出ている状況であります。特に女子消防団員ということではなく、まずは火災、地震、風水害等の災害時に欠くことのできない消防団員全体の加入促進活動に取り組んでいきたいと考えております。

以上であります。よろしくお願ひいたします。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

それでは、再質問をさせていただきます。

1問目の再質問でございますが、富士山噴火や酒匂川の氾濫について、過去の歴史を研究し最新の研究成果を発表する温故知新の活動をされています民間団体がおられます。このような足柄歴史新聞、議長のお許しをいただいて、ちょっとお示しいたします。こういった冊子でございます。富士山と酒匂川の冊子にまとめ、児童・生徒の社会科の副読本として活用し、町の減災対策に直結した活動をされています。

今月の6月1日に、新田次郎原作の「怒る富士」のお芝居が御殿場市で開催されました。小学生高学年と中学生には無料で歴史を学ばせておりました。我が町では町内にすばらしい民間団体がいられるわけで、子どもから大人までの皆さんに、自分の住んでいる町で過去に酒匂川が富士山の噴火で氾濫した歴史がございます。歴史を学ぶ意味で、教育面とか町の広報紙でのPRとか、様々な場面で有効に活用し減災につなげるべきと思います。この提案に対して、町ではどのようなお考えでしょうか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（渡邊雅彦）

ただいまの下山議員のご質問にお答えいたします。

議員ご指摘のように、富士山噴火ですとか酒匂川の氾濫についての研究成果につきましては、小学校の学習の中でも取り入れさせていただきましたり、減災につながるものであれば、様々な機会を捉えて活用させていただきたいというふうに考えております。また、具体的には、地域の防災リーダーの育成を目的といたしました防災講演会、こちらなどの機会に受講者の方への情報提供を行ってまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

ただいま答弁いただきました地域の防災リーダーの育成に、防災講座などの機会に受講者の方に情報提供を行っていくということなのですが、私が考えますのは、地域の防災リーダーの育成のそういう講座も大事でございますが、1人でも多くの町民にこういった活動をお示しするためには、町の広報紙でPRするとか、いろいろな部分での情報提供が大事だと思いますので、もっと広い意味で講座とか、そういうことを行っていただければと思いますが、その点はいかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

今、下山議員の言われた冊子は、私も、新しく今度、増刷をされたので、町長室にいただいております。できるだけ新しく、今度は県西土木の所長、副所長もかわりましたので、そういう人たちにこの地域の歴史ということでお渡しをしたり、警察署長もそのような形で地域のことを知っていただきたいということで、個別にはお話をさせていただいてお渡しをしています。

それ以外にも、開成小学校で毎年、歴史発見クラブの皆さんに直接、九十間の土手に行って、そこで過去の歴史ほか、かすみ堤の話もさせていただいておりますので、今も、実際的には冊子を使わせていただいて。学校でも、もちろん副読本でありますし、そのような形でもありますし、また、今度の土曜学校においても、そのような形の講座も取り入れておりますので。できるだけ、そういう中で町民や子どもたちにも広く浸透させて、これからもいきたいと考えております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

それでは、2問目の質問をさせていただきます。

各自主防災会では、防災訓練などの機会に、それぞれの個性を生かした様々な訓

練が実施されておりますが、各自主防災会の活動には温度差があるように感じられます。具体的な訓練において、ある自治会では自主防災組織の組織図と役割分担を名前入りで、どなたが見ても一目瞭然の形で作成されてございました。それが自治会館の正面玄関に掲示されており、有事の際には慌てずに行動できると確信をいたしました。このように先進的な取り組みをされているケースを積極的に町が奨励するお考えはございますでしょうか、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（渡邊雅彦）

ただいまの下山議員のご質問にお答えいたします。

議員ご指摘の地域防災力の向上の面について、各自主防災会へ、それぞれレベルアップのために様々な活動を周知する方法はないかということのお話でございます。

こちらにつきましては、災害を最小限にするためには欠かせない内容というふうに理解しておりますので、町全体のレベルアップのため、広報紙における継続的なPR、それから防災部長会議というのを毎年、防災訓練前、その後にも開かせていただいておりますので、そこにおきましても積極的な活動を行っておられます自主防災会さんの活動を先進的事例というふうに取り上げさせていただきまして、それを開成町全体の普遍的なものに広げていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

2問目の高校生の育成についてでございますが、これは町長にお伺いしたいと思っております。第五次開成町総合計画の課題に、災害時の救援活動の担い手となる中学生や高校生の育成とございます。文命中学校の生徒の参加は3年前から実施されてございまして、地域の皆さんとのコミュニケーションもとれ、大変有意義な事業で評価するところでございます。

県立山北高校では、体育館が向原地域の広域避難場所となっており、運動能力にすぐれている一クラスの生徒全体が、地域住民とともに担架の搬送方法や三角布の訓練にリーダーとして参加されている事例もございます。開成町では、昼間の地震のときなどは町外へ勤務している男性が多い中で、高校生は最大の戦力となっただけだと思います。県立吉田島総合高校との連携も検討していくと答弁をいただきましたが、具体的に、いつから、どういう形で高校生に防災訓練に参加してもらう取り組みを考えておられるのか伺います。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

今、山北高校の事例をお話しいただきましたが、この4月から吉田島総合高校の

校長先生もかわりましたので、改めて、そういう中で新しい校長先生とともに、地域の中にある高校でありますので、防災訓練を含めて、どのように実施したらいいか、これから早急に校長先生と打ち合わせをしながら決めていきたいと思えます。いつからというのは、まだ、相手方がありますので、それは、できるだけ早く実施できるように考えていきたいと思えます。できるだけ地域の人と高校生が、また交流できるような形の防災訓練も考えていく必要があると思えますので。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

現在、中学生が既に進められているわけで、それと県西地域の高校でも学校で実践されている現実があるわけですので、今、町長答弁にございましたように、学校と早く調整をされて実施に向けてというようなお話を伺いましたが、今年度から実行される可能性も高いと思えますが、その点のお考えはいかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（渡邊雅彦）

ただいまの下山議員のご質問にお答えいたします。

今、おっしゃられておりますのは、吉田島総合高校さんを舞台にした地元、例えば榎本自治会との協力訓練、この中に高校生の方を絡ませた訓練というふうな形の訓練ができないかどうかということによろしいでしょうか。

実は、今年度の防災訓練におきましては、形としまして、開成幼稚園、南部コミュニティセンターを舞台といたしまして、牛島、宮台さんの全参加者の方を対象とした訓練を予定しております。実は、こちらにつきましては、2年前から開成小学校、そして昨年は文命中学校ということで、広域避難所開設訓練というのを順番順番に行っていきまして、その後、来年度以降、吉田島総合高校さんを舞台といたしまして、地元、榎本自治会さんにご協力いただきまして、そして学校のほうも、今、町長のほうから申し上げましたとおり、学校との連携、こちら、参加いただくには様々な手続等が必要になってくると思えます。細かな調整も必要になってくると思えますので、今回につきましては、申しわけございませんが、牛島、宮台の訓練ということで自治会にも協働のお願いを今は進めておる段階でございますので、来年度以降、榎本、それから吉田島総合高校さんとの連携訓練につきまして、お願いできればというふうにご考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

今の日本の状況を鑑みますと、いつ関東にもどんなふうに災害が起こるかわかり

ませんので、来年といわずに早急にすべきと私は考えるのでございますが、いかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（渡邊雅彦）

下山議員のご質問にお答えいたします。

おっしゃられるとおり、危機的な状況というのは確かに迫っているかと思えます。お話として吉田島総合高校さんに、まず、そういったものが可能かどうか、その確認を、先方があることですので、そちらを確認させていただきまして、それが実現可能なものであれば、今年度の防災訓練の中に取り入れるということもあるかとは思いますが、そこはご調整させていただきたいということで答弁させていただきます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

それでは、3問目の女子消防団員の必要性と拡充策についてのお考えはということで、午前中に同僚議員が不足しております消防団員についての議論をされましたが、私は、男女共同参画の視点で、災害時に女性も活躍している観点から質問をさせていただきます。

女子消防団員の必要性と拡充策についての答弁をお聞きいたしまして、今、世の中、国レベルで女性活躍推進に向けて先進的な取り組みをされている状況下で、防災においても女性のきめ細かな視点の取り組みは高く評価されております。神奈川県内33市町村のうち15市町に女子消防団員がいる現状で、町のお考えが先進的ではなく、私は大変残念に感じております。

あるいは、質問が女子消防団員ということで、男子消防団員と同じような活動をイメージされたのかもしれませんが、無論、私も女子消防団員には災害現場の力仕事や活動は難しいと思っております。提案したい内容は、消防団の本部付き広報担当の女子消防団員を早急に募集されて採用されたらどうですかということです。いかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（渡邊雅彦）

ただいまの下山議員のご質問にお答えいたします。

先ほど町長答弁の中でも述べさせていただきましたが、消防団員は町の防災、地域防災にとって欠くことのできない存在ということでございます。団員確保は、喫緊の課題ということで認識しております。消防団員の欠員があるということは、すなわち地域の防災力が低下しているということにもつながります。町としては、町

を挙げて消防団員の確保に取り組んでいるという状況でございます。欠員が10人出ているという状況では、まずは男性消防団員の確保を実践してまいりたいと思います。

ただ、下山議員さんご指摘のように、女性の方の女子消防団員の任命という部分でございますけれども、消防団員の任命につきましては開成町の消防団条例、こういったものの中に消防団長が任命するという形での記載がございますので、まずは女子消防団員の登用につきまして、この場ではすぐにできる、できないという即答は難しいところがございますので、消防団長、消防団副団長を初めとする消防団の幹部の皆さんと十分協議をさせていただきます、検討・研究させていただければというふうに思います。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

今年の「かいせい」5月号の表紙や特集に、男子消防団員の中に「あじさいちゃん」が中央に1人いるだけで雰囲気はなごみます。こんな感じですね。この中に消防団の本部付き広報担当の女子消防団員が三、四人いましたら、もっと雰囲気は変わると思いますし、町では第五次総合計画の中に平成30年度までに女性の登用率の目標値を40%に掲げてございます。神奈川県で一番小さい町が、人口も増え、今、一番注目をされている開成町です。より先進的な取り組みをされ、開成町らしい元気で笑顔のすてきな消防団の運営を期待します。

男女共同参画という世界の潮流の中で、私も開成町においては女性のリーダーの自覚を持っております。町として、男子消防団員にこだわる理由をお示しいただきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（渡邊雅彦）

下山議員のご質問にお答えいたします。

必ずしも、今、男子消防団員にこだわるというふうにおっしゃられましたけれども、実際の消防団員108という人数の中で、先ほどの吉田議員のご質問の中でも各分団15のところを1人から3人、それぞれの分団が減っております。それだけ人がいないということは、そこは実際の災害時、その災害時の対応というのがなかなか十分に手が回っていかない、そういったところがございます。消防団員さん、災害に全員が対応できれば、それだけ戦力がありますけれども、それぞれの方のご事情等もありますので、やはり欠員は、そこは補充していかなくてはならないと思います。

女性の方の役割として、決して女性団員さんを募集しないとは申してはおりません。ただ、実際に女性消防団員さんの役割ですとか、そういったものを先進事例の、

今、議員さんがおっしゃったように、33市町村のうちの15ですか、先進的な事例の中で、例えば広報のPRとか、そういったものを、今、議員さんご指摘のように本部付けでということをございますけれども、それは、あくまでも今やりとしている、この中でのやりとりでございますので。組織の問題というところもございますので、消防団の幹部の皆さん、そちらにまずはお話をさせていただいて、情報共有をさせていただいた上で、そこで、その辺の方向は出させていたいただきたいというふうに思います。

ですので、決して男性消防団員にこだわる、こだわらないというところも、私の答弁の中でそういうところがあるのかもしれませんが、まずは災害時の戦力を補充したいと。それから、女性の消防団員の方については、それと同時並行で検討を進めてまいりたい、そういうふうな考え方でおります。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

今、男性にという話に、本当に我々もそういうふうに考えて、実際、女子消防隊が中家村と金井島があったのがなくなってしまったという現実があって、なかなか募集しても消防団員が見つからないのではないかという危惧が、まず第一にあります。実際に活動するときに、やはり、今、定数が足りていない中で、最優先は実際に働ける団員を、まず最低、定数まで持っていくというのが最優先かなということの中の話は今させていただいておりますので、女子消防団員を排除するという考えは全く持っておりませんので。これは、やはり消防団長等を含めてきちんと話をしながら、役割分担の中で女子としての消防団員の仕事がきちんと割り当てができれば、その中に募集をしていきたいなと思いますので、今後、また消防団長と検討させてください。よろしくお願いします。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

答弁いただきました。私は、本当に女性が採用されないのはなぜかなというような原因をお示しいただければ、足りない部分の女性への啓蒙や啓発を全力で行っていきます。これからも議論を交わしていきたいと思いますので、期待しております。

これで私の質問を終わります。

○議長（茅沼隆文）

これで下山議員の一般質問を終了いたします。

ここで暫時休憩といたします。再開を15時20分といたします。

午後3時00分